

未来へつなげる農業

宇佐市は、米・麦・大豆を中心とした土地利用型農業が盛んで、県内随一の穀倉地域となっています。農業人口の減少、1農家当たりの経営面積の増加、農業施設の老朽化など直面する課題に対して、現在行われている施策を紹介します。

施策①

農政課では、国営かんがい排水事業「駅館川2期地区」の推進に合わせて、令和5年度から農業委員会をはじめ関係機関と協力し、地域計画の策定を進めた結果、令和6年度中に策定できました。この間、農業者の皆さんには協議の場で、地域農業における基礎的な情報や営農上のさまざまな課題を出していただきました。

地域計画は、地域の農業者で約10年後、地域の農地のどこを誰が担い活用するのか、地域農業の将来について、地域が一体となって取り組んでいくことなどを話し合いによって決めていくものです。この計画により、国の補助金などの支援が受けやすくなります。

営農上の課題

- ・高齢化・後継者不足
- ・用排水路の老朽化
- ・農業用水の不足
- ・耕作条件の悪い農地
- ・鳥獣被害
- ・少ない農業収入

協議の場

地域計画の策定

- ・地域農業の現状確認、**営農上の課題**、地域農業の将来のあり方
- ・農用地の集団化（集約化）に関すること
- ・地域内の農業を担う者の一覧
- ・目標地図（農地利用の将来の設計図）

課題解決の方向へ

- ・国営かんがい排水事業
- ・国営緊急農地再編整備事業
- ・情報通信環境整備事業
- ・各種補助事業



地域計画は策定して終わりではありません。令和8年度以降も地域に赴いて、地域計画の進行管理を続けていくとともに、皆さんから出された課題を一つでも多く解決できるよう関係機関と連携し、国営かんがい排水事業「駅館川2期地区」や地域計画に付随する各種補助事業にも取り組んでいきます。引き続き、地域の皆さんのご協力をお願いします。

問合せ／農政課 国営事業営農対策係（☎ 27-8241）

現 状

トラクター、田植機、コンバインなど機械化農業のきっかけとなったのは、昭和 30 年代末から始まった日出生ダム、日指ダムといった農業ダムや宇佐西部幹線水路などの幹線水路の整備を行った国営農業水利事業、それに引き続き行われた県営大規模ほ場整備事業です。

3 反区画のほ場、コンクリート製の水路、各ほ場に面した農道の整備により、農業の作業効率は向上しましたが、整備から 40 年以上が経過し、水路などの老朽化による漏水の発生、農家数の減少による 1 農家の耕作面積の増加などに対応するための再整備が求められています。



老朽化した水路



狭小な農道



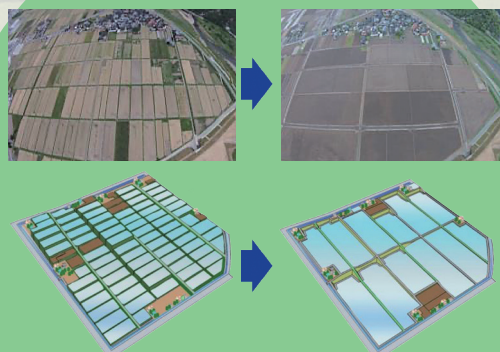
操作が煩雑な水路

施策②

日出生ダム、日指ダム、国営幹線水路などの農業水利施設は、国により令和 1～5 年度に実施された地区調査（基本調査設計）、令和 8 年度完成予定の全体実施設計（詳細設計）を経て、令和 9 年度に工事着工予定です。それに合わせて末端のほ場においても、今後地域の意向に基づき農地、末端農業水利の再整備を予定しています。

問合せ／耕地課 国営事業推進係
(☎ 27-8215)

農地の大区画化

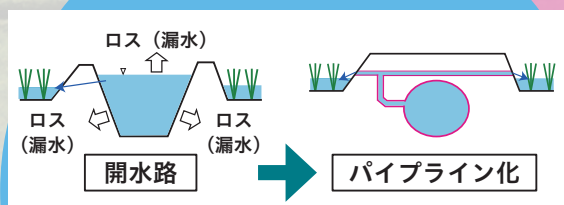


大型機械による農作業が可能となり、生産性の低コスト化につながる

これからの 農地整備の

3 本柱

用水パイプライン化



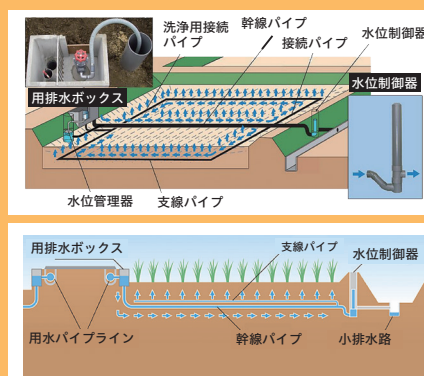
整備前



整備後

相乗効果

地下水位制御システム



水管理の省力化、漏水や蒸発の軽減による節水効果、水質改善による作物の品質向上など